

指導のサポート

活動が見て取れる紙面は、
子どものためだけでなく、先生にも有効です

各見開き内においては、小単元タイトルを「先生の投げかけ」、本文をそれに対する「子どもの思い」という形で端的に表現し、どのような活動が行われ、何を「めあて」にするのかをわかりやすくしています。そして、メインとなる活動の様子に集中できるように配慮しました。

小単元タイトル
先生の投げかけ

本文
子どもの思い

キャラクター
留意点や着眼点のヒント





カード

入学当初から段階的に、絵のみ、3行程度、5行程度と文章量を変化させ、発達段階に応じた例となるように配慮しています。また、「書き慣れる」という事も重視し、同じスタイルのカードを多く掲載しています。

あめの ひも たのしいな。

されいば みずたま はっけん

6 がつ 29 にも なまき よしかわ ののか

1 ねん 1 くみ

みた きいた におった かわった おもった

くものすが あめのおちを までしめていて
しゅんぞりあ みたいでした。

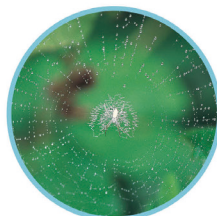
あめの ひは
いつもと ようすが
ちがうね。



アマガエル



カタツムリ



クモの す

あぶない



かわに ちかづかない。

資料写真や 各種コーナー

「あぶない」、「こんなとき
どうしよう」などを紙面右
端を基本位置にして配置
することで、メインとなる
活動紙面をすっきりさせま
した。

黒板, 教室づくりの様子から活動のヒントを演出

子どもたちの伝え合い風景の背景にある黒板を利用し、どのような観点で話し合えばよいか、どのようにまとめていけばよいかなど、先生的生活科の演出のヒントになる要素を掲載しました。また、おもちゃ広場などでは、掲示物も含め、教室づくりのヒントとなるように配慮しました。

話し手の観点だけでなく、聞き手の
観点についても示しています。

上巻 P.78 ~ 79



諸感覚による
分類も効果的です。

上巻 P.86 ~ 87



場の設定、演出は生活科の活動において重要なことと考えています。



下巻 P.44 ~ 45



下巻 P.84 ~ 85